北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2015／12／03(木)
NO. 175

タクティクス（ＨＢＡ指導者育成専門委員会ブログ）

第 46 回全国高等学校選抜優勝大会北海道予選会

指導者育成専門委員　川村　健二

冬来たりなば、ウインターカップ、
女子は山の手の牙城揺るがず、２６度目の連続優勝を果たす！！
男子、札幌工業が初制覇、勝負の分水嶺、女神微笑む！！

いよいよ冬、そしてウインターカップの時期。冬至の日を挟んだ１１月５日から８日まで、南空知地区協会が担当し、美唄総合体育館を中心に開催されたこの大会は、女子は山の手が、札幌香蘭高校時も含めると２７回、２６度の連続優勝を飾り、男子は札幌工業が苦しみながらも嬉しい初優勝を果たし全国へと駒を進めた。

女子は札幌山の手・海星学院が、それぞれ予想どおりベスト４に勝ち上がってきた北星学園女子、とわの森三愛を危なげなく退け、決勝で今年３度目（高体連・国体・本大会）の対戦となった。試合はスピードとシュートの正確さ、終始気迫あふれるディフェンスを展開した山の手が海星学院を一蹴し、９６－６３の大差で優勝を果たした。

山の手は１・２年生のメンバーでスタート、第１ピリオドこそ２２－１７と小差で終えたものの、３年生を投入するにしたがいディフェンスは更に緻密さ・激しさを増し、第２ピリオドでは海星の攻撃を５点に抑え、前半で４４－２２のダブルスコアで勝敗を決定付けた。

海星はセンター長岡を中心に様々な攻撃を仕掛けるが思うに任せず、加えてペリメター付近のシュートも高さと焦りからか一向に決まらず、逆に運ばれて確実に３Ｐを決められるといったシュート力の違いを見せ付けられ、悔しい結果となってしまった。

山の手は、センター栗林の成長に加え、２年⑫田中が３Ｐ５本を含む３１点の大活躍。３年生に限らず全員で夏の雪辱を果たすべく臨んでいる姿勢が窺われ、１２月全国大会での活躍が期待される。個人賞は山の手、最優秀選手賞⑯栗林未和、優秀賞⑦米谷帆芽、⑫田中未来の３名、海星、敢闘賞⑨土谷きらり、優秀賞⑧長岡侑里の２名がそれぞれ表彰された。

男子はまず、第一シード札幌工業と第４シード東海大第四が順当に勝ち上がり準決勝で対戦、札工が、攻撃が噛合わず元気が無かった東海大第四を退け決勝に進んだ。

一方はノーシードの駒大付属苫小牧が、第２シード札幌日大を撃破、勢いそのままに第３シード旭川工業を破り勝ち上がってきた帯広白樺をねじ伏せ決勝に進出した。

決勝は札工⑤濱尾、駒沢苫④山田の今年度特筆するシューターを有するチームの一戦となり、前半は４５－３２と駒沢が優勢にゲームを展開していった。しかし第３ピリオド、残り２分を切ってから流れが変わり逆転、再逆転のシーソーゲームとなり、最後は札工⑤濱尾が決めたフリースローが決勝点となって嬉しい初優勝を遂げた。

この試合の勝負の綾（勝敗を決する微妙な作戦や駆け引き）の一つは、札工⑤濱尾がそれまで５本の３Ｐを決めていたにもかかわらず、第３ピリオド残り４分頃から攻撃を全てドライブインに切り替えたことであろう。監督の指示か、本人の判断か、結果的にそこから１２得点、最後はフリースローを得てそれが決勝点となった。勝負の綾の２つ目は、駒澤のエース④山田が第４ピリオド残り５分に４ファウル、その時、数十秒でもメンバーチェンジをしなかったことが裏目に出てしまった。はて？と思う間もなく、数秒後には5ファウルで退場、残り５分を山田、更には⑦山口のガード抜きで戦うことになってしまった。

勝負の行方は結局、残り１秒、７０－７１の１点差の場面で、駒澤は勝利の女神にそっぽを向かれてフリースローが２本とも外れ、札工が勝ちを拾う思いがけない幕切れとなった。勝負の綾の３つ目を強いて言うならば、最後の場面、選手の緊張を解きほぐし、女神を微笑ませるべく監督の呪文を伝えきれなかったことだったかもしれない。

個人賞は、札工⑤濱尾宗総が最優秀選手賞、④鈴木祐太郎が優秀賞に、駒沢苫小牧から敢闘賞④山田友哉、優秀賞⑤入倉大樹、帯広白樺から優秀賞⑧工藤祐平が表彰された。

学校事情等でこの時期まで３年生を引っ張ってくることはなかなか難しい面があることは推測出来る。夏の高体連で果たせなかったものを追い続けるのが当然といった姿勢で、いかに緊張感を保ち臨ませるか、そこも指導者に課せられた領域に感じた大会でもあった。

最後に、４日間の大会運営にご尽力頂きました南空知地区協会はじめ高校関係の皆様、お手伝い頂いた高校生の皆さん、大変お世話になりました。心よりお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。